



第2回

限りある医療資源を いかに有効に活用するか。 それが地域医療の課題です。

大震災の津波によって大きな被害をうけた宮古市は、いま復興にむけて一歩一歩、着実に歩みを進めている。「夢や希望の持てる復興のまちづくり」のために、官民一体となって取り組んでいるのが地域医療の再生だ。

岩手県宮古市

市長

山本正徳氏

聞き手

女優

紺野美沙子さん

紺野 震災のあと、市長さんは毎日防災放送で市民のみなさんに呼びかけをされたそうですね。

山本 はい。毎朝八時半頃から

「宮古市は必ず復興します」と。三カ月ぐらい続けました。そうしたらあまりにくだいと（笑）。

紺野 それで励まされた方も多

かったと思いますよ。いまはすっかりきれいになっていますが、市庁舎も大きな被害をうけたんですね。

山本 ええ、一階まで津波がきて、復旧に二億円近くかかりました。宮古市全体ではおよそ二千五百億円の損害ですね。医



紺野美沙子

Misako Konno

昭和五十五年、NHK連続テレビ小説『虹を織る』でヒロインを演じる。その後、女優として活躍するかたわら、平成十年には国連開発計画親善大使に任命され、国際協力の分野でも活動している。平成二十二年秋から、「紺野美沙子の朗読座」を主宰。



療機関の被害としては、田老の診療所が被災をしています。田老の診療所は明治二十九年の大津波と同規模のものが来ても浸水しない区域につくったはずでした。今回の津波は予想以上の大きさだったんです。この地域の二次医療機関の県立宮古病院ですが、こちらは高台にあったので被災しませんでした。

くりました。震災前はベッドをを持った診療所だったんですが、現在入院は休止の状態です。

紺野 それはなによりでした。被災した田老の診療所は復旧できたんですか？

山本 「国境なき医師団」の支援をうけて、グリーンピア三陸みやこというホテルだった建物の二階部分に仮設の診療所をつ

山本 「国境なき医師団」の支援をうけて、グリーンピア三陸みやこというホテルだった建物の二階部分に仮設の診療所をつ

くりました。震災前はベッドをを持った診療所だったんですが、現在入院は休止の状態です。

紺野 前回、二本松市の三保市長さんから医師不足が深刻だというお話をうかがいました。宮古市ではいかがですか？

山本 宮古病院では、震災前が一番医師の数が少なかったんです。整形外科や循環器科の医師がいなくて大変でした。震災後、宮古病院の院長に赴任してこられた佐藤元昭先生が「医療は私に任せて」と言ってくれたんです。医療に関しては宮古病院を中心にとめていくから、市長は医療以外の復旧、復興に頑張

山本 まずは、普段からいろいろ相談できるかかりつけのホームドクターを持つてくたさい、と言っているんです。そこで重症化するようであれば、紹介状を持って二次医療機関である宮古病院で受診する。医師の負担を減らすためにも、そういう形をとっているんです。

山本 もちろんです。五十人ぐらいいた医師が半減してしまいい、いまようやく二十七、八まで戻ってきたところなんです。その限られた医療資源を宮古病院に集中する形で、何とか乗り切ってきたところなんです。

紺野 医師も「限られた資源」？

山本 そうです。まずは核になる医療機関、ここでは宮古病院ですが、そこに医師を集めて、

紺野 患者さんがどのような治療をうけて、どういうお薬を飲んでいのかがすぐわかると。

山本 宮古では震災後医師の数が少なかったんです。整形外科や循環器科の医師がいなくて大変でした。震災後、宮古病院の院長に赴任してこられた佐藤元昭先生が「医療は私に任せて」と言ってくれたんです。医療に関しては宮古病院を中心にとめていくから、市長は医療以外の復旧、復興に頑張

紺野 『広報みやこ』を拝見していたら、「私たちの心がけて地域医療を守ろう」という記事がありました。医師は市民共有の財産。私たちみんなで県立宮古病院と医師を守らなければいけない、と。市民のみなさんにも意識改革を訴えているんですね。

山本 かかりつけのお医者さんがいれば、「このごろ体がだるいんだけど……」とか相談できるじゃないですか。早い段階でもらうのではなく、まず予防からということですね。

山本 乳幼児期から高齢期まで、一生を通じていきいきと生活するために口腔ケアをきちんとしましょうという内容です。口の中をきれいにするだけでだいぶ違うんですね。高齢者が健康で長生きするためには、やっぱり噛む、噛めるということが大事

紺野 今年二月に県内で初めて「歯と口腔の健康づくり条例」を制定されたのも、その一環ですか？

山本 限られた医療資源をどのように有効活用するか。そのためにはまず自分でケアということですね。よくわかりました。今日はありがとうございました。

紺野 限られた医療資源をどのように有効活用するか。そのためにはまず自分でケアということですね。よくわかりました。今日はありがとうございました。



地域の基幹病院である県立宮古病院では、病院長を中心にした医師招聘活動が功を奏し、診療体制が徐々に整ってきた



子供たちの口腔検診風景。歯は健康の原点。宮古市では全市を挙げて、歯と口腔の健康づくりにつとめている



山本正徳

Masanori Yamamoto

昭和三十年宮古市田老生まれ。昭和五十六年岩手医科大学歯学部卒業。田老に歯科医院開業。平成十二年宮古歯科医師会副会長。平成十七年宮古市教育委員。平成二十年宮古市教育委員長。平成二十一年七月宮古市長就任。

いろいろな対処できますからね。
紺野 今年二月に県内で初めて「歯と口腔の健康づくり条例」を制定されたのも、その一環ですか？
山本 乳幼児期から高齢期まで、一生を通じていきいきと生活するために口腔ケアをきちんとしましょうという内容です。口の中をきれいにするだけでだいぶ違うんですね。高齢者が健康で長生きするためには、やっぱり噛む、噛めるということが大事

だと思っんですね。わたしは歯科医師ですから、介護施設に行つたときなんかは、お年寄りの入れ歯を全部磨いてあげて、きれいにしてから帰るんです。口の中をきれいにしておかないと、残滓などが原因で肺炎をおこして亡くなる方も多いですよ。
紺野 限られた医療資源をどのように有効活用するか。そのためにはまず自分でケアということですね。よくわかりました。今日はありがとうございました。